R7 第3回富良野市文化芸術推進委員会

配布資料

【議題　①】

芸術文化で“ふらの”を創ろう！ TALK×ART まちづくりラボの実施に向けて

【検討事項】

アイデアトーク（グループワーク）のねらい・進め方・役割・成果の残し方などについて明確にする

❶当日の全体像

14:00～14:05（18:30～18:35）
　　開会あいさつ（篠田委員長／本会の趣旨含）　【　５分】

14:05～14:15（18:35～18:45）
　　アイスブレイク（樋口委員／自己紹介含）　【１０分】

14:15～15:00（18:45～19:30）
　　アイデアトーク（１部）　【４５分】
　　「文化芸術にふれるきっかけを広げるためには？」

15:00～15:05（19:30～19:35）
　　休　憩　【　５分】

15:05～15:50（19:35～20:20）
　　アイデアトーク（２部）　【４５分】
　　「文化芸術を通じて、みんながつながるためには？」

15:50～15:55（20:20～20:25）
　　ふりかえり（参加者の感想インタビュー）　【　５分】

15:55～16:00（20:25～20:30）
　　閉会あいさつ（篠田委員長／今後の展望含）　【　５分】

❷芸術文化ラボ(略)のゴール定義

『市民の自由な対話から生まれる、課題解決のアイデアと取り組み』

市民の自由な対話を通じて、

「きっかけを広げるための仕掛け」や

「つながりをつくるための仕組み」

といった課題について、

その解決に向けたアイデアや

具体的な取り組みを、

市民とともに考える。



❸アイデアトーク【１部】設計の確認



※１テーブル参加者６名＆委員２名×５テーブル

①役割決め（参加者の中から発表者を決める）
⇒テーブル進行役が進める

②導　　入　【５分】
⇒全体コーディ（事務局・諸橋委員）から説明
※テーマのねらいと課題解決に向けた視点を共有

【共通テーマ・ねらい】
・文化芸術にふれるきっかけを広げるための仕掛けについて考える

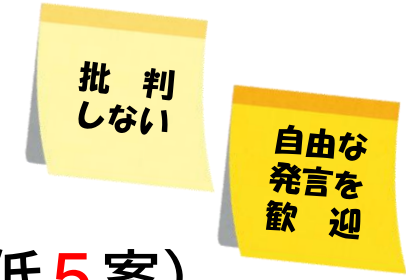
❸アイデアトーク【１部】設計の確認

【課題解決に向けた視点】

基本方針 基本施策	現状の課題	課題解決に向けた視点
基本方針１ 【ふれる】 基本施策１ 誰もが文化芸術を楽しめる機会の充実	関心度は79%、行なった人は77%と高いが、一方で参加した人は34%、また年１回以下の直接鑑賞が25%。体験や参加できるような機会を増やし、主体的に関われるような環境づくりを進めていく必要がある。	●文化に興味はあるけど、なかなか参加できない…どうすれば一歩踏み出せる？ ●若い人が気軽に文化芸術にふれられるようにするには、どんな工夫がある？ ●「ちょっと気になる」を「やってみたい」につなげるには？
基本方針１ 【ふれる】 基本施策３ 文化芸術の魅力を伝える情報発信の充実	情報取得手段として、市広報紙などの紙媒体が広く活用されているが、デジタルメディアも一定程度利用されており、特に若年層を中心に情報取得の手段として浸透しつつある。一方で「情報がない」という声も少なくないため、より見通しの良い、統合的な情報提供体制を整えていく必要がある。	●文化芸術のイベントや活動、どうすればもっと多くの人に届く？ ●若い世代にも「行ってみたい」と思ってもらえる情報発信って？

③アイデアトーク【１部】設計の確認

③ブレインストーミング及びＫＪ法　　【３０分】
⇒テーブル進行役が進める



ステップ１：発　散　　【１０分】
付箋に思いついたことをどんどん書く（１人最低５案）
声かけ例：「どんな小さなことでもＯＫ」
「実現可能性は今は考えないで」



ステップ２：共　有　・　発　展　【１０分】
テーブル（模造紙）に貼り出し、似たアイデアをグループ化
「この案に何を足せばもっと面白い？」を問いかけ(のっかりOK)

ステップ３：収　束　　【１０分】⇒文章化



④発表・共有タイム　　【１０分】
※１Ｔ２分×５Ｔ

❹アイデアトーク【２部】設計の確認



※好きなテーマに席替え

①役割決め（参加者の中から発表者を決める）
⇒テーブル進行役が進める

②導　　入　【５分】
⇒全体コーディ（事務局・諸橋委員）から説明
※各テーマのねらいと課題解決に向けた視点を共有

【テーブルテーマ・ねらい】
・文化芸術を通じて、みんながつながるための仕組みについて考える

T1：子どもと文化芸術がつながる、T2：文化団体同士がつながる、
T3：文化施設とつながる、T4：文化芸術で人がつながる、
T5：文化財や食文化とつながる

❹アイデアトーク【２部】設計の確認

【課題解決に向けた視点】

T1：子どもと文化芸術がつながる
T2：文化団体同士がつながる

基本方針 基本施策	現状の課題	課題解決に向けた視点
基本方針１ 【ふれる】 基本施策２ 子どもたちの未来を拓く文化芸術活動の充実	各項目のアンケート結果から、子どもたちを対象とした文化芸術施策の充実に対して、多くの市民が期待を寄せていることがうかがえるため、次世代を担う子どもたちが様々な文化芸術を身近に感じ、触れることのできる取り組みを積極的に推進する必要がある。	●子どもたちがもっと文化芸術にふれるには、どんな場や機会があるといい？ ●子どもの感性や表現力を育てる文化体験って、どんなものがある？ ●学校と地域が一緒にできる文化活動って、どんなこと？ ●未来のアーティストを育てるには、どんな応援が必要？
基本方針２ 【はぐくむ】 基本施策２ 文化芸術活動の協働と基盤づくり	補助金等の財政的支援を通じて、活動の促進及び基盤強化に取り組んでいるが、文化団体の後継者不足が課題。また、仲間などのつながりづくりを構築することで、「きっかけがない」とする人たちを減らすことができるため、市民との交流を促進し、共創の場を広げていく仕組みづくりが必要である。	●文化団体の高齢化や後継者不足、どう乗り越えていける？ ●団体同士がつながって、一緒に活動するにはどんな場があるといい？ ●市民が「ちょっとやってみようかな」 と思える文化活動って？

❹アイデアトーク【２部】設計の確認

【課題解決に向けた視点】

T3：文化施設とつながる
T4：文化芸術で人がつながる

基本方針 基本施策	現状の課題	課題解決に向けた視点
基本方針２ 【はぐくむ】 基本施策３ 文化芸術活動の協働と基盤づくり	文化施設等の環境整備、文化芸術活動の環境づくりについては、単なる鑑賞施設ではなく、「市民の活動の場」として施設が認識されている結果に。誰もが活動・参加しやすい状況づくりの構築、さらには、鑑賞機会の提供と地域性のある企画が求められている。	●文化施設をもっと使いやすくするには、どんな工夫がある？ ●発表の場がもっと身近になるとしたら、どんな場所があるといい？ ●富良野らしさを感じられる文化イベントって、どんなものがある？ ●誰でも気軽に使える文化の「居場所」って？
基本方針３ 【つなげる】 基本施策１ 文化芸術を通じた多様なつながりづくりの推進	文化芸術を通じた地域内外・異文化間の交流は、富良野市の文化的多様性や創造性を高める上で重要な要素であり、つながりづくりが文化芸術活動のきっかけづくりにも繋がることから、文化芸術を活かした世代間や地域間、異文化・国際交流を促進するとともに、自治体間や様々な文化芸術活動団体間の交流など多様なつながりを広げていく必要がある。	●文化芸術を通じて、地域や世代がつながるにはどんな場があるといい？ ●外国の人や異なる文化と交流するには、どんなきっかけがあるといい？ ●市民が「交流してみたい」と思えるような仕掛けって？

❹アイデアトーク【２部】設計の確認

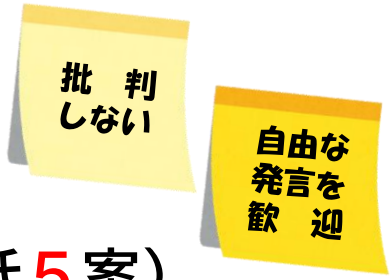
【課題解決に向けた視点】

T5：文化財や食文化とつながる

基本方針 基本施策	現状の課題	課題解決に向けた視点
基本方針４ 【つたえる】 基本施策１ 文化財等の継承と活用の推進	保存・活用の担い手不足や認知度の低さが課題。これらの文化財等を将来にわたって適切に保存するとともに、観光をはじめ様々な分野との連携により活用の幅を広げることで、その魅力や価値を高めていく必要がある。	●富良野の文化財をもっと身近に感じるには、どんな工夫がある？ ●文化財を守りながら、みんなで楽しむにはどうしたらいい？
基本方針４ 【つたえる】 基本施策２ 地域の特色を活かした生活文化の推進	食文化における地域の特色として、メイドインフラノ制度の取り組みや地元高校生による食育活動や地域食材を活かした商品開発などの取り組みがあるが、これらの取り組みについて、拡充を図りながら、富良野らしい自然と食文化を次世代へとつなげていくことが重要である。	●富良野の食文化や自然を活かした文化活動って、どんなものがある？ ●若い人が地域の文化に関わりたくなるには、どんな場やしくみがあるといい？ ●地域の特色を活かした文化活動を広げるには？

❹アイデアトーク【２部】設計の確認

③ブレインストーミング及びＫＪ法　　【３０分】
⇒テーブル進行役が進める



ステップ１：発　散　　【１０分】
付箋に思いついたことをどんどん書く（１人最低５案）
声かけ例：「どんな小さなことでもＯＫ」
「実現可能性は今は考えないで」



ステップ２：共　有　・　発　展　【１０分】
テーブル（模造紙）に貼り出し、似たアイデアをグループ化
「この案に何を足せばもっと面白い？」を問いかけ(のっかりOK)

ステップ３：収　束　　【１０分】⇒文章化
⇒上位３案を『つながる一歩』として落とし込む

④発表・共有タイム　　【１０分】
※１Ｔ２分×５Ｔ



⑤その他

◎参加者にはアンケート結果や計画骨子案を配布

◎テーブルには課題解決に向けた視点を設置

◎

◎

◎

◎

◎

◎